

“地域とともに”が合言葉。地域に見守られながら育つ「桜野っ子」たち

文



全校児童約110人の桜野小学校。校区には、桜井二見ヶ浦や海岸沿いのカフェなど糸島で人気のスポットが点在しています。現在の校舎は、平成3年に竣工された比較的新しいもの。2階には、オープンスペースの図書ホールがある珍しい造りになっています。ホールの正面には「志摩のメルヘン」と名付けられた大きなステンドグラスがあります。ステンドグラスは子どもたちの大好きな場所であり、学校のシンボルとなっています。

桜野小学校の敷地には、広大な梅林があります。梅林で行われる「梅ちぎり」は子どもたちが楽しみにしている学校行事の一つです。梅林は、実習園として昭和18年に開墾したものの、近年は雑草が生い茂り、梅の収穫量も減少していました。それを見兼ねた当時のPTA会長・副会長が先頭となり、平成24年に梅林の再生計画が

始まりました。雑草の刈り込み、青空教室の設置、階段の整備など、代替わりしても思いが受け継がれ、保護者だけでなく地域の人を巻き込んだ壮大なプロジェクトとなりました。そのお陰で梅の収穫量もアップ。子どもたちだけでなく、地域の人にとっても憩いの場となり、今も愛され続けています。

少人数の学校だからこそできる「縦割りグループ活動」では、上級生が下級生を思いやる気持ちを育み、下級生は上級生に憧れと目標を持ち行動するようになります。海、山、川の自然に囲まれた場所で、学校や家族はもちろん、地域の人にも守られながら、子どもたちは素直に伸び伸びと成長しています。



「旧志摩町に住む妖精」をイメージして作られたステンドグラス



憩いの広場完成式典の時の記念撮影

